

「寿都町の将来に向けた勉強会」（第13回勉強会）開催概要

1. 日 時 2022年11月24日（木）18:30～20:45
2. 場 所 寿都町総合文化センターウィズコム2F会議室
3. 出席者 【勉強会メンバー】：8名
【ファシリテーター】：北海道大学 竹田先生
4. タイムライン
18:30～18:33 本日のアジェンダ説明
18:33～19:05 日本原燃（株）（六ヶ所村）の視察報告
19:05～19:10 「町の将来ビジョンを明確にするための活動アイディア」の現状整理
（前回、前々回の振り返り）
19:10～19:45 「活動アイディア（経済、地域資源分野）」の深堀り対話
19:45～20:18 「活動アイディア（住民サービス分野）」の深堀り対話
20:18～20:25 「活動アイディア」の広がり対話
20:25～20:35 本日の対話内容の振り返り
20:35～20:45 次回以降のすすめ方ほか

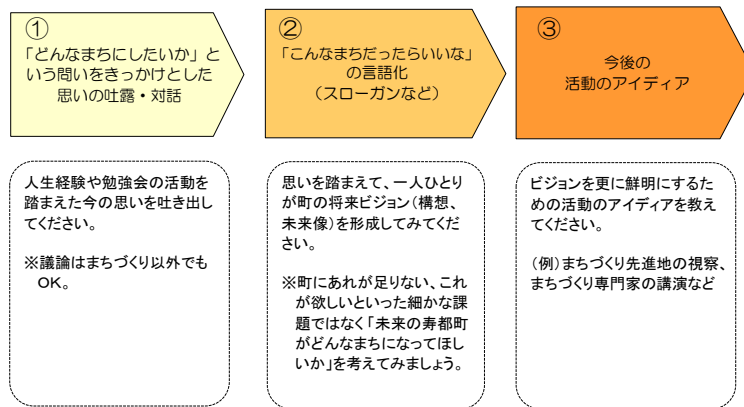
5. 主な内容

（1）日本原燃（株）（六ヶ所村）の視察報告

- サポーターより視察概要を報告
- 視察参加メンバーより以下の補足意見、感想等を報告。
 - ・セキュリティが非常にしっかりしていて外部からの侵入を許さない印象だった。
 - ・ステンレス板の設置等、自然災害等への安全対策はすごいと思った。
 - ・夕食時、地元の話聞く機会があり、「昔は出稼ぎの町だったが、今は親子がともに暮らせて安心だ」という話を口々に聞いた。企業が地域に密着し成功した好事例ではないか。
 - ・一つの町としては上出来すぎるくらいの完成形の例だと思った。一方で、行ってみて分かったことは、地層処分事業だけでは六ヶ所村の1/10くらいの規模にしかならないのではないかとということ。
 - ・視察時にアテンドしていただいた方は「原発は危険なものという認識を持ち、安全第一に取り組んでいる」とおっしゃっていた。その通りだと思ったのだが、その方に関する記事を見てしまい、非常に残念な思いがした。
 - ・視察時の説明は高度なものも多かったが、本勉強会のおかげで話について行けたと思う。本勉強会での活動は大事だと思った。

（2）「町の将来ビジョンを明確にするための活動アイディア」の現状整理（前回、前々回の振り返り）

- ・ 前回、前々回の勉強会で、以下の③まで対話を重ねてきた。



- ・ 上記③の「今後の活動アイデア」で出た意見を整理したところ、すぐに実現できそうなもの(表1のステップ③)と、まだ具体化の議論をすべきもの(表1のステップ①②)があることが分かったため、表1のステップ①→②→③と具体化を進めていきたい。
- ・ なお、既に対話を終えたもの(表1の○印)と、まだ対話を必要とするもの(ピンクと青の網掛け)があるが、本日は表1のうちピンクの網掛け部分の対話をすすめていきたい。

(表1)

項目	活動アイデア		
	具体化のステップ		
	ステップ① (ビジョン実現の手段)	ステップ② (手段に関して学びたいもの)	ステップ③ (見学などの具体的活動)
A 経済			○
B 人口・人材	○	○	
C 住民参加の仕組み	○	○	
D 地域資源		○	
E 住民サービス			
F ??			
G ??			

(3) 「活動アイデア(経済、地域資源分野)」(表のA-①、D-①)の深掘り対話

<水素に関連するもの>

- ・ 水素を町の主要産業と位置付けたい。
※それを将来にわたる町の資産とするべきか、地層処分事業が実現するまでの“つなぎ”とするか、両方の意見あり。
- ・ “核燃料サイクルは破綻している”という話も聞くなか、国策で進める事業に頼り切ることへの不安がある。
- ・ 水素関連の先進地域とともに、原子力産業の「光」と「影」を見るべき。賛成・反対の立場に関係なく、福島第一原子力発電所は視察すべき。

<養殖に関連するもの>

- ・ 寿都で養殖はうまくいっていない印象。他の魚種に目を向けたり、町として陸上養殖にチャレンジ

ンジしてはどうか。

→視察先としてヒラメの養殖（福島県？）。養殖は漁業者でなくてもできる。水産加工業は既に町に存在している。

- ・湯別の湯を念頭に、余剰温泉水を活用する事例を見てみるのはどうか。
→栃木県に「夢創造」という会社がある（トラフグの養殖？）。

<その他>

- ・今まで事業化できていなかった分野（仕事だと認識されていなかったモノ、コト）へのチャレンジが必要ではないか。
→事業計画の立て方や資金確保のノウハウが知りたい。
- ・六ヶ所村次世代エネルギーパークに倣い、「岩宇・南後志 次世代エネルギーパーク構想」はどうか。（原子力発電所、風力発電、地層処分場等のエネルギー関連産業が集積するエリア）
⇒全体として、各産業（水素や養殖）に精通している専門家を招いてまずは話を聞いてみたい。

（４）「活動アイデア（住民サービス分野）」（表のE-①）の深堀り対話

- ・どのようなことをやるにしても持続性が大切。
- ・町外からの人材の受入れ体制、住居の準備が必要。
→寿都町には空き家バンク制度があるはずだが、町民はその制度を知らず活用されているとは言えない。
- ・沿岸にコンクリートで藻場を作り、海苔の養殖ができないか。海苔の採取なら漁船などの初期投資が不要で簡単に就労可能。波の荒い場所に漁に出る必要がないから、高齢者でも働くことができる。
→「人にやさしい町」（住民サービス）

（５）「活動アイデア」の広がり対話（表のF、G）

- ・「文化・教育」といったジャンルが抜けているのでは。
→関係人口を増やしたいが、寿都に長期滞在してもらおう仕組みがない。また、寿都に対するイメージも確立していない。
→寿都写真クラブが意欲的に活動している。寿都の写真をPRしていけば、東川町のような“写真の町”に匹敵できるのではないか。
- ・「文化・教育」という観点からは、寺社仏閣の「公園化計画」の動きがあると聞いている。

（６）その他

- ・以前にメンバーから、「地層処分事業に慎重な立場の専門家を招いて話を聞く機会を作りたい」という要望が出ていたかと思うが、状況はどうか。
→本勉強会の開始当初からリクエストがあった事項、今後の課題と認識している。

（７）次回以降のすすめ方ほか

①次回以降のすすめ方について

- ・視察先が具体化しているもの（福島第一原子力発電所、福島水素エネルギー研究フィールド、

福島ロボットテストフィールド等)については、実現していく方向で調整する。

- ・本日話題となった各産業（水素、養殖事業等）は、メンバーの知識に差があったり、産業の全体像が不明なため視察を実施したとしてもその目的や効果があいまいになりかねないため、専門家を招いて産業全体を俯瞰できる話を聞いたり、具体的な視察先の提案を受けるなど、事業に対する予習をする。
- ・新たなセグメントとして示された「文化・教育」は、対話を深掘りしていく。
- ・文献調査に係る地層処分技術WGの状況（水冷破碎岩など地層処分事業の振り返りも含む）についてもお知らせしていく。

②次回の日程について

- ・12月は繁忙期でメンバーの都合がつかず、次回は1/19（木）に開催することとなった。

以上

【写真】意見交換の様子

